

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H02723

研究課題名(和文) バチカン図書館所蔵豊後切支丹資料の国際的情報資源化に関する海外学術調査研究

研究課題名(英文) Overseas Academic Survey Research Related to Turning the Vatican Library's Bungo Christian Materials into an International Information Resource.

研究代表者

大友 一雄 (OHTOMO, KAZUO)

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：30169007

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,400,000円

研究成果の概要(和文)：バチカン図書館で発見されたマレガ神父収集資料群1万数千点を、アーカイブズ学に基づき調査と、イタリアの文書館の研究者との交流を通じた検証を踏まえて構造分析を実践し、その成果を日本語・英語で公表した。

本研究は2017年にはポルトガル・リスボンで開催された欧州日本研究協会(EAJS)の会議、同年日本バチカン国交樹立75周年記念シンポジウム(東京)、バチカン図書館長を招聘した大分国際シンポジウム(2019)などで発表した。また、資料群の構造分析に基づき「マリオ・マレガ資料データベース」(多言語)を公開した。研究論文集は2021年に出版を予定する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、バチカン図書館との連携によりマレガ収集資料群1万数千点を構造化し、インターネットを通じて公開し、一般利用を広く実現したことにある。資料の大半は白杵藩宗門方役所の資料群であり、キリシタン・類族統制に関する資料群がこれほどの規模で発見された事例は外にない。また、近世初期から幕末に至る本資料群は地域史料としても大いに期待される内容であり、多方面からの活用が考えられ、社会的意義は大きい。さらに収集者であるマレガ神父の活動分析を通じて資料の来歴なども解明した。本研究により、公開と利用のための基本情報が集約されたといえる。

研究成果の概要(英文)：The survey of ten and several thousand materials in Fonds Marega, found in the Vatican Library, based on the archival science and analyses of their hierarchical structure based on exchange with staffs and researchers of Archives in Italy, was carried out. The result of this survey was made public in Japanese and in English.

The research was presented at the conference of EAJS held in Lisbon, Portugal in 2017, at the symposium commemorating the 75th anniversary of diplomatic relations between the Holy See and Japan (Tokyo) in the same year and at the international symposium in Oita for which the prefect of The Vatican Apostolic Library was invited in 2019, and the like. Moreover, "The Vatican Library's Fonds Mario Marega Database" (Multilingual support) was published based on the structural and organization analysis of the fonds (<https://base1.nijl.ac.jp/~marega/>). Furthermore, the collection of research papers will be published in 2021.

研究分野：史学一般、アーカイブズ学、史料管理学

キーワード：キリシタン マリオ・マレガ アーカイブズ 豊後 バチカン 宣教師 サレジオ大学 類族

1. 研究開始当初の背景

宣教師マリオ・マレガ(1902-1978)は、1929年に来日し、古事記のイタリア語翻訳書の刊行、豊後地域のキリシタン研究および関連資料の収集で大きな成果を成した。しかし、質量で注目された収集資料群は、戦後まもなく行方不明となり、キリスト教研究・地域史研究にかかわる者達は長年にわたりその所在を探索してきた。本研究は2011年のバチカン図書館での資料群発見を受けて多くの関係者の要望のもとに申請されたものである。

2. 研究の目的

本研究は、2011年にバチカン図書館で発見された通称マレガ資料(マリオ・マレガ神父が戦前戦中に収集した17~19世紀の豊後切支丹文書1万数千点)、およびローマのサレジオ大学図書館所蔵の関連書簡や記録などを対象として、近年のアーカイブズ学に基づいた段階的な調査の実践と検証を通じて、世界の人々に日本のキリシタン禁制に関わる資料情報を多言語で発信することを目的とした。2013年、人間文化研究機構は共同研究のひとつとして本資料群の物理的調査、保存修復、資料撮影を開始したが、本研究は機構での取り組みを越えて、a. 資料個々の内容調査、b. 資料相互の関係分析を通じた全体構造調査を実施し、多言語での構造分析目録の公開、資料機能論研究を土台とする代表的資料の翻刻公開を、内外の日本研究者、キリスト教研究者等との共同調査・研究によって実現することを目指したものである。

3. 研究の方法

調査・研究活動は、研究班を設けて年次段階的に実行し、現地調査は合同で行うこととした。文書調査整理班(バチカン図書館所蔵マレガ資料)は、マレガ文書の読解・分析を通じて文書群構造を追究し、詳細目録を作成する際の基盤となる情報を整えた。これらの活動は、資料点数が1万数千点と膨大であるため日本(国文学研究資料館)に納入されつつあったデジタル画像データの分析と、バチカン図書館の実物調査を年次段階的に行った。文書調査整理班(サレジオ大学所蔵マレガ資料)、マレガ資料群の概要調査を実施した。同資料群には、神父個人に関する文書や関連書籍、多言語で書かれた関係者の手紙等1,000点強が含まれた。多くが未整理であったため、劣化状況・集合的情報など物理的状态情報の集約にも努めた(この情報により劣化の激しい古文書類はバチカン図書館へ移管され修復された)。類型化・多言語化班。バチカン図書館所蔵分の資料群の階層構造化、目録等の多言語化を担当した。資料群構造は、伝来状況から、臼杵藩収蔵段階における構造、マレガ神父が収集した段階における構造、バチカン図書館で1950年後半から1960年代頃に行われた21袋(後に追加があり26袋となる)の分類・管理された段階における構造、これらの各段階に留意して全体像を提示することとした。また、世界中から様々な分野の研究者が集うバチカン図書館での情報提供に資するため、目録の他にガイド、用語集や資料集といった導入的研究補助ツールを、日本語だけでなく、英語でも作成し、適宜イタリア語を付す作業をあわせて行った。資料翻刻・翻訳は、バチカン図書館から年次段階的に納入されるデジタ

ル画像 3 万 8000 コマを用いて、都合 2 5 0 点を翻刻し、最重要な文書 70 点前後を英語に翻訳して公開した。 データ公開班。まず、アーカイブズ学に基づく情報資源化の方法について、バチカン図書館およびイタリア文書館関係者と協議し、構築イメージを固め、目録データにデータベースのための項目追加、画像表示を実現するための作業などを段階的に進めた。外部資金などと連携して「マリオ・マレガ資料データベース」を公開した。

さらに、上記の各班の活動と全体的な情報共有にかかわり、内外で研究会を開催した。また、成果を踏まえた国際シンポジウム・研究会集・講演会などを企画し、関係機関との連携によってこれを開催した。

4 . 研究成果

バチカン図書館のマレガ資料群は、2011 年、未整理状態で発見されたため、その保存管理には目録作成が必要となった。また、全体総数は 1 万数千点に及ぶため、情報の構造化についての検討が欠かせなかった。取り組みでは近年のアーカイブズ学を踏まえ出所の組織・機能分析のうえに全体を構造化することを目指し、バチカン図書館での収集段階を基本に全体像の提示を試みた。また、バチカン図書館での発見時の資料群では、マレガの収集段階、江戸時代の文書の大半を占める白杵藩宗門方役所での管理段階の情報も色濃く残っていたため、各段階の情報を留意しながら資源化することが重要と判断された。よって、バチカン図書館での調査では A1 ~ A26 の状態を丹念に記録化し、これを年次段階的にとりまとめ、最終的に統合版を日本語・英語でそれぞれ作成した。日本語での総合版は『バチカン図書館所蔵マリオ・マレガ資料 - 概要と紹介 - 』（2021 年 3 月）、英語での総合版は『Archival Sources from the Marega Collection in the Vatican Library Outlines and Selected Documents』（2021 年 3 月）となる。さらに研究成果の一端は、2017 年 9 月 ポルトガル・リスボンでの EAJIS 大会においてメンバー 5 人がパネル報告「The early modern system of regulations against Christians and its influence: a work-in-progress report on the Marega Collection in the Vatican Library」を行った。2018 年 1 月には、国立ヴェネツィア文書館、トスカーナ文書保護局と「日伊における資料調査・目録研究会」を開催し、資源化に関する理解を共有した。2019 年 10 月には、バチカンから図書館長などを招聘し、大分県との連携のもとに国際シンポジウム「マレガ収集日本資料の発見と豊後切支丹研究の新成果」を開催した（豊の国情報ライブラリー視聴覚ホール）。さらに、ローマ大学・ナポリ大学と連携によるマレガ文書解読プログラム特別講義を連年開催し、資料解読と同時に調査の進捗などを紹介した。また、マレガの経歴、資料群の出所・伝来・構造、キリシタンに関するメンバーの研究成果は、論文集として 2021 年度中の刊行を予定する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 湯上良 | 4. 巻 第28号 |
| 2. 論文標題 「イタリア統一前後におけるアーキビスト 制度の確立と理論的發展」 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『アーカイブズ学研究』 | 6. 最初と最後の頁 30-42 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 大橋幸泰 | 4. 巻 なし |
| 2. 論文標題 「諸藩による島原天草一揆の記録と記憶」 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産世界文化遺産登録記念 特別展 キリシタン 日本とキリスト教の469年』 | 6. 最初と最後の頁 104-106 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 五野井隆史 | 4. 巻 なし |
| 2. 論文標題 「キリシタン宣教とキリシタン教会の興廃 ～ザビエルから宣教師国外追放までの概史～」 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 臼杵市連携事業 マレガ・プロジェクト史料講座 マレガ史料をよむ ～豊後キリシタン史と踏絵～ | 6. 最初と最後の頁 1-11 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 佐藤晃洋 | 4. 巻 なし |
| 2. 論文標題 「マレガ史料にみる臼杵藩のキリシタン禁制政策」 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 臼杵市連携事業 マレガ・プロジェクト史料講座 マレガ史料をよむ ～豊後キリシタン史と踏絵～ | 6. 最初と最後の頁 12-17 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 太田尚宏 | 4. 巻 なし |
| 2. 論文標題 「白杵藩の踏絵あれこれ 定例の踏絵・臨時の踏絵」(1・2) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 白杵市連携事業 マレガ・プロジェクト史料講座 マレガ史料をよむ ~豊後キリシタン史と踏絵~ | 6. 最初と最後の頁 18-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 太田尚宏 | 4. 巻 なし |
| 2. 論文標題 「日本歴史資料(古文書)の解説と内容理解」(教科書) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 単著 | 6. 最初と最後の頁 1-33 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 湯上良 | 4. 巻 第65輯 |
| 2. 論文標題 「近世後期のヨーロッパにおける情報管理 イングランド、プロイセン、ヴェネツィアにおける税務情報の管理」 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『研究年報』 | 6. 最初と最後の頁 67-89 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 大友一雄 | 4. 巻 14号 |
| 2. 論文標題 特集にあたって - パチカン図書館所蔵切支丹関係文書の魅力を探る | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇 | 6. 最初と最後の頁 129-130 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 シルヴィオ・ヴィータ | 4. 巻 14号 |
| 2. 論文標題 マリオ・マレガ神父のキリシタン研究を探る - 地元の民間学と大正・昭和のキリシタン像を中心に - | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇 | 6. 最初と最後の頁 131-146 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 三野行徳 | 4. 巻 14号 |
| 2. 論文標題 臼杵藩宗門方役所とキリシタン統制 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇 | 6. 最初と最後の頁 147-165 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 大橋幸泰 | 4. 巻 14号 |
| 2. 論文標題 キリシタン類族改制度と村社会 - 臼杵藩の場合 - | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇 | 6. 最初と最後の頁 167-184 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 湯上 良 | 4. 巻 13号 |
| 2. 論文標題 非国有アーカイブズと公的保護 - イタリアにおける国家機関の創設 - | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇 | 6. 最初と最後の頁 51-60 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 松井洋子 | 4. 巻 第27号 |
| 2. 論文標題 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ氏蒐集文書調査報告 『豊後切支丹史料』とその周辺 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 68-75 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 櫻井成昭 | 4. 巻 第21号 |
| 2. 論文標題 豊前のキリシタン | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 大分県立先哲史料館研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 33-45 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計62件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 32件)

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 湯上良 |
| 2. 発表標題 「記録を守り、記憶を伝えるイタリア」 |
| 3. 学会等名 イタリア研究会 第456回例会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 川村信三 |
| 2. 発表標題 「豊後国高田庄肥後領切支丹文書から読み解く豊後キリシタンの消長」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会 (7月8日) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 ル・ルー ブレンダン |
| 2. 発表標題 「幕末～戦前期のパリ宣教会 とくに九州を中心に」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（7月8日） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 清水有子 |
| 2. 発表標題 「A17・A18の目録作成に関する進捗報告」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（7月8日） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 大津祐司・平井義人・佐藤晃洋 |
| 2. 発表標題 「A19の目録作成に関する進捗報告」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（7月8日） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 ノゲラ・ラモス・マルタン |
| 2. 発表標題 「近世初期の反キリシタン文学にみるキリシタン信仰の諸相：『喜利志袒仮名書』を中心に」 |
| 3. 学会等名 合同研究会 キリスト教の伝播・受容と異文化交流に関する研究会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岸本恵実 |
| 2. 発表標題 「キリシタン版『羅葡日辞書』におけるプリニウス『博物誌』の翻訳」 |
| 3. 学会等名 合同研究会 キリスト教の伝播・受容と異文化交流に関する研究会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大橋幸泰 |
| 2. 発表標題 「諸藩による島原天草一揆の記録と記憶」 |
| 3. 学会等名 國學院大学博物館特別展「キリシタン 日本とキリスト教の469年」関連イベント、「シンポジウム 島原天草一揆とその後」 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 湯上良 |
| 2. 発表標題 「近世後期の情報管理 ヴェネツィアとヨーロッパとの比較」 |
| 3. 学会等名 イタリア言語・文化研究会 第156回例会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 清水有子 |
| 2. 発表標題 「A17・A18の目録作成とファイル記述」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（10月7日） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 大津祐司・平井義人・佐藤晃洋 |
| 2. 発表標題 「A19の目録作成とファイル記述」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（10月7日） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 浪江健雄 |
| 2. 発表標題 「A20の目録作成とファイル記述」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（10月7日） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 工藤航平 |
| 2. 発表標題 「近世後期の臼杵藩領における人の移動と宗教統制 - 「生死出入之覚」を手がかりに - 」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（10月7日） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡村一幸 |
| 2. 発表標題 「臼杵藩における貞享4年令の施行過程 - 「京都覚書」キリシタン関連記述との関係 - 」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（10月7日） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 大津祐司 |
| 2. 発表標題 「寛永12年キリシタン起請文と禁制システム」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（10月7日） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 代表者：稲賀繁美 |
| 2. 発表標題 東アジアの内外を移動・伝播した日本関連資料の発掘と活用（セッション番号：IA5） |
| 3. 学会等名 第3回 東アジア日本研究者協議会国際学術大会パネル採択報告（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 シルヴィオ・ヴィータ |
| 2. 発表標題 「昭和戦前期における宣教師の歴史研究－マリオ・マレガ神父とその「分脈」」 |
| 3. 学会等名 第3回 東アジア日本研究者協議会国際学術大会パネル採択報告（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 大津祐司 |
| 2. 発表標題 くずし字解読実践1「儀式となった絵踏」 |
| 3. 学会等名 ローマ大学連携事業日本歴史資料（古文書）のくずし字解読と資料調査法 マレガ文書を通じた日伊教材開発・教授法研究のために（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐藤孝之 |
| 2. 発表標題 くずし字解読実践2「日常的な絵踏」 |
| 3. 学会等名 ローマ大学連携事業日本歴史資料（古文書）のくずし字解読と資料調査法 マレガ文書を通じた日伊教材開発・教授法研究のために（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 太田尚宏 |
| 2. 発表標題 「第 部・第 部のまとめと討論」 |
| 3. 学会等名 ローマ大学連携事業日本歴史資料（古文書）のくずし字解読と資料調査法 マレガ文書を通じた日伊教材開発・教授法研究のために（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 太田尚宏 |
| 2. 発表標題 「概要調査の方法と技術」 |
| 3. 学会等名 ローマ大学連携事業日本歴史資料（古文書）のくずし字解読と資料調査法 マレガ文書を通じた日伊教材開発・教授法研究のために（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大津祐司 |
| 2. 発表標題 「キリスト教の伝来とマレガ・プロジェクトにみる学术交流」 |
| 3. 学会等名 別府アルゲリッチ音楽祭 inローマ（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 太田尚宏 |
| 2. 発表標題 「日本歴史資料（古文書）とくずし字解読」 |
| 3. 学会等名 ナボリ東洋大学連携事業 日本歴史資料（古文書）とくずし字解読（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大津祐司 |
| 2. 発表標題 くずし字解読実践1「儀式となった絵踏」 |
| 3. 学会等名 ナボリ東洋大学連携事業 日本歴史資料（古文書）とくずし字解読（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐藤孝之 |
| 2. 発表標題 くずし字解読実践2「日常的な絵踏」 |
| 3. 学会等名 ナボリ東洋大学連携事業 日本歴史資料（古文書）とくずし字解読（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 シルヴィオ・ヴィータ |
| 2. 発表標題 「マリオ・マレガ自伝とドキュメンタリー」 |
| 3. 学会等名 サレジオ大学連携研究会「マリオ・マレガ：20世紀の証人 サレジオ会宣教師の眼から見た日本」（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 マルコ・プレズニカル |
| 2. 発表標題 「ゴリツィア、トリエステ時代のマリオ・マレガ」 |
| 3. 学会等名 サレジオ大学連携研究会「マリオ・マレガ：20世紀の証人 サレジオ会宣教師の眼から見た日本」(国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 スタニスワフ・ズィムニャク |
| 2. 発表標題 「オーストリア・ハンガリー帝国における初等教育」 |
| 3. 学会等名 サレジオ大学連携研究会(国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 アルド・ジラウド |
| 2. 発表標題 「サレジオ会士の養成：トリノとリグーリア」 |
| 3. 学会等名 サレジオ大学連携研究会「マリオ・マレガ：20世紀の証人 サレジオ会宣教師の眼から見た日本」(国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 シルヴィオ・ヴィータ |
| 2. 発表標題 「マリオ・マレガの見た日本：布教・翻訳・研究・収集」 |
| 3. 学会等名 サレジオ大学連携研究会「マリオ・マレガ：20世紀の証人 サレジオ会宣教師の眼から見た日本」(国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 湯上良 |
| 2. 発表標題 「宣教地における切支丹関係文書群：パチカン図書館マレガ・プロジェクト」 |
| 3. 学会等名 サレジオ大学連携研究会「マリオ・マレガ：20世紀の証人 サレジオ会宣教師の眼から見た日本」(国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山下則子 |
| 2. 発表標題 「マレガ文庫の日本古典籍：特徴と稀覯性」 |
| 3. 学会等名 サレジオ大学連携研究会「マリオ・マレガ：20世紀の証人 サレジオ会宣教師の眼から見た日本」(国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 平井義人 |
| 2. 発表標題 「マレガ文書の発見と調査協議」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト×別府大学学術・教育連携事業 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書の発見と情報資源化 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大友一雄 |
| 2. 発表標題 「調査計画論(準備調査・調査計画、協定、組織など)」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト×別府大学学術・教育連携事業 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書の発見と情報資源化 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 青木睦 |
| 2. 発表標題 「マレガ文書の概要調査と保存修復」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト×別府大学学術・教育連携事業 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書の発見と情報資源化 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 太田尚宏 |
| 2. 発表標題 「マレガ・プロジェクトの デジタル化・資料目録記述について」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト×別府大学学術・教育連携事業 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書の発見と情報資源化 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大友一雄 |
| 2. 発表標題 「画像データベースの構築・公開」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト×別府大学学術・教育連携事業 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書の発見と情報資源化 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 シルヴィオ・ヴィータ |
| 2. 発表標題 「昭和戦前期のイタリア人宣教師と豊後キリシタン マリオ・マレガ神父（1902-1978）収集活動の歴史的位置付け」 |
| 3. 学会等名 国際シンポジウム「国際海洋都市平戸と異文化へのあこがれ 在外資料が変える日本研究」（国際学会） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 平井義人 |
| 2. 発表標題 「稲葉家文書の伝来と移動」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（2月16日） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 高見純 |
| 2. 発表標題 「マレガ手帳にみるマレガ収集資料群の整理と管理」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（2月17日） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 平井義人・岡村一幸 |
| 2. 発表標題 「京都大学所蔵白杵藩文書の調査と概要」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（2月17日） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 平井義人 |
| 2. 発表標題 「転び切支丹・本人同然の分布調査について」 |
| 3. 学会等名 マレガ・プロジェクト研究会（2月17日） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 シルヴィオ・ヴィータ |
| 2. 発表標題 Exotica of the Japanese Past: Shinmura Izuru (1876-1967) and the Representation of the Christian Century |
| 3. 学会等名 The Twentieth Asian Studies Conference Japan (ASCJ) (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 大津祐司 |
| 2. 発表標題 野津のキリシタン平山宮内 |
| 3. 学会等名 大分県地方史研究会近世史部会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 大津祐司 |
| 2. 発表標題 細川氏と豊前・豊後のキリシタン |
| 3. 学会等名 大分県立先哲史料館夏季企画展講演会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 シルヴィオ・ヴィータ |
| 2. 発表標題 マリオ・マレガ神父の大分ー戦前・戦中・戦後 |
| 3. 学会等名 別府大学 (招待講演) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 シルヴィオ・ヴィータ |
| 2. 発表標題 パチカン図書館－その概要と日本との交流 |
| 3. 学会等名 イタリア研究会12月例会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|----------------------------|
| 1. 発表者名 湯上 良 |
| 2. 発表標題 西洋から斜め読む「マレガ文書」 |
| 3. 学会等名 第45回国文研フォーラム |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 大友一雄 |
| 2. 発表標題 開催趣旨説明 |
| 3. 学会等名 日本近世文書のくずし字解読を学ぶ - パチカン図書館所蔵マレガ収集文書を通じて（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 太田尚宏 |
| 2. 発表標題 日本古文書とくずし字解読 |
| 3. 学会等名 日本近世文書のくずし字解読を学ぶ - パチカン図書館所蔵マレガ収集文書を通じて（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 宮間純一 |
| 2. 発表標題 くずし字解読実践1「切支丹末裔の出生・婚姻・離縁と文書システム」 |
| 3. 学会等名 日本近世文書のくずし字解読を学ぶ・パチカン図書館所蔵マレガ収集文書を通じて（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平井義人 |
| 2. 発表標題 くずし字解読実践2「切支丹末裔の出稼・死去と文書システム」 |
| 3. 学会等名 日本近世文書のくずし字解読を学ぶ・パチカン図書館所蔵マレガ収集文書を通じて（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大友一雄 |
| 2. 発表標題 マレガ文書群の構造と目録記述について |
| 3. 学会等名 パチカン図書館所蔵マレガ収集切支丹文書群の伝来と構造（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 シルヴィオ・ヴィータ |
| 2. 発表標題 マレガ氏の経歴と文書収集について |
| 3. 学会等名 パチカン図書館所蔵マレガ収集切支丹文書群の伝来と構造（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 三野行徳 |
| 2. 発表標題 臼杵藩宗門方と宗門改について |
| 3. 学会等名 パチカン図書館所蔵マレガ収集切支丹文書群の伝来と構造（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 太田尚宏 |
| 2. 発表標題 臼杵藩の文書群管理と端裏書・収納袋 |
| 3. 学会等名 パチカン図書館所蔵マレガ収集切支丹文書群の伝来と構造（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松井洋子 |
| 2. 発表標題 『豊後切支丹史料集』(正)編纂と文書管理 |
| 3. 学会等名 パチカン図書館所蔵マレガ収集切支丹文書群の伝来と構造（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松澤克行 |
| 2. 発表標題 『豊後切支丹史料集』(続)編纂と文書管理 |
| 3. 学会等名 パチカン図書館所蔵マレガ収集切支丹文書群の伝来と構造（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐藤晃洋・藤田淳一郎・宮間純一・工藤航平 |
| 2. 発表標題 目録記述の実践報告 |
| 3. 学会等名 パチカン図書館所蔵マレガ収集切支丹文書群の伝来と構造（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大津祐司 |
| 2. 発表標題 寛永12年切支丹改起請文と禁制システムの成立 |
| 3. 学会等名 パチカン図書館所蔵マレガ収集切支丹文書群の伝来と構造（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 湯上 良、 アンヘラ・ヌーニェス＝ガイタン |
| 2. 発表標題 パチカン図書館とマレガ・プロジェクト |
| 3. 学会等名 西洋アーカイブズ史 ウェビナー（国際学会）（国際学会） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大友一雄 |
| 2. 発表標題 パチカン図書館所蔵マレガ収集資料群の伝来と構造 |
| 3. 学会等名 神戸大学国際文化学研究推進センター研究プロジェクト「「美しい」キリスト者の検証 「郷土」における宣教イメージの反転 」 第2回研究会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計7件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 国文学研究資料館 大友一雄研究室 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 人間文化研究機構国文学研究資料館編 | 5. 総ページ数 83 |
| 3. 書名 『バチカン図書館所蔵マレガ神父収集豊後切支丹史料 概要と紹介 Vol.2』(日本語版) | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 国文学研究資料館 大友一雄研究室 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 人間文化研究機構国文学研究資料館編 | 5. 総ページ数 103 |
| 3. 書名 『Archival Sources from the Marega Collection in the Vatican Library Outlines and Selected Documents Vol.2』(英語版) | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 バチカン図書館 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 バチカン図書館・人間文化研究機構編 | 5. 総ページ数 145 |
| 3. 書名 『Preservation and Conservation of Japanese Archival Documents in the Vatican Library The Marega Collection as a Case Study』 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 大友一雄、松井洋子、松澤克行、佐藤晃洋、三野行徳、藤田淳一郎、大津祐司、宮間純一、大橋幸泰、工藤航平、湯上 良 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 国文学研究資料館 大友一雄研究室 | 5. 総ページ数 94 |
| 3. 書名 バチカン図書館所蔵マレガ神父収集豊後切支丹史料 - 概要と紹介 - 日本語版 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 大友一雄、松井洋子、松澤克行、佐藤晃洋、三野行徳、藤田淳一郎、大津祐司、宮間純一、大橋幸泰、工藤航平、湯上 良 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 国文学研究資料館 大友一雄研究室 | 5. 総ページ数 94 |
| 3. 書名 Archival Sources from the Marega Collection in the Vatican Library Outlines and Selected Documents (バチカン図書館所蔵マレガ神父収集豊後切支丹史料 - 概要と紹介 - 英語版) | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 大友一雄・三野行徳編、松井洋子・松澤克行・佐藤晃洋・三野行徳他著 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 マレガ・プロジェクト(国文学研究資料館) | 5. 総ページ数 205 |
| 3. 書名 バチカン図書館所蔵マリオ・マレガ資料 - 概要と紹介 - | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 大友一雄・三野行徳編、松井洋子・松澤克行・佐藤晃洋・三野行徳他著 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 マレガ・プロジェクト(国文学研究資料館) | 5. 総ページ数 231 |
| 3. 書名 Archival Sources from the Marega Collection in the Vatican Library Outlines and Selected Documents | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| <p>マリオ・マレガ資料データベース https://base1.nijl.ac.jp/~marega/ マレガ・プロジェクト(外部資金との共同) https://www.nijl.ac.jp/projects/marega/</p> |
|--|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 湯上 良 (YUGAMI RYO) (30772363) | 学習院大学・文学部・助教 (32606) | |
| 研究分担者 | 西村 慎太郎 (NISHIMURA SHINTARO) (90383546) | 国文学研究資料館・研究部・准教授 (62608) | |

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-----------------------|----|
| 研究協力者 | ヴィータ シルヴィオ (Vita Silvio) | 京都外国語大学・教授 | |
| 研究協力者 | デルベーネ マルコ (Delbene Marco) | ローマ大学サピエンツァ・教授 | |
| 研究協力者 | ミラージィ ルーカ (Milasi Luca) | ローマ大学サピエンツァ・准教授 | |
| 研究協力者 | パシーニ チェーザレ (Pasini Cesare) | バチカン教皇庁立バチカン図書館・館長 | |
| 研究協力者 | ヴァーニア・プロヴェルビオ デリオ (Vania Proverbio Delio) | バチカン教皇庁立バチカン図書館・研究員 | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-----------------------|----|
| 研究協力者 | ヌーニェス・ガイタン アンヘラ (Nunez Gaitan Angela) | バチカン教皇庁立バチカン図書館・室長 | |
| 研究協力者 | グリマッチャ マルタ (Grimaccia Marta) | バチカン教皇庁立バチカン図書館・修復師 | |
| 研究協力者 | 松井 洋子 (Matsui Youko) | 東京大学史料編纂所・教授 | |
| 研究協力者 | 松澤 克行 (Matsuzawa Yoshiyuki) | 東京大学史料編纂所・教授 | |
| 研究協力者 | 佐藤 孝之 (Sato Takayuki) | 元東京大学史料編纂所・名誉教授 | |
| 研究協力者 | 高見 純 (Takami Jyun) | 拓殖大学・准教授 | |
| 研究協力者 | 渡辺 千鶴 (Watanabe Chizuru) | 国文学研究資料館・リサーチ・アシスタント | |
| 研究協力者 | 太田 尚宏 (Ota Naohiro) | 国文学研究資料館・准教授 | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 青木 睦 (Aoki Mutsumi) | 国文学研究資料館・准教授 | |
| 研究協力者 | 大橋 幸泰 (Ohashi Yukihiro) | 早稲田大学・教授 | |
| 研究協力者 | 清水 有子 (Shimizu Yuko) | 明治大学・准教授 | |
| 研究協力者 | 大津 祐司 (Otsu yuji) | 大分県立先哲史料館・元館長 | |
| 研究協力者 | 佐藤 晃洋 (Sato Akihiro) | 元大分県立先哲史料館・元館長 | |
| 研究協力者 | 平井 義人 (Hirai Yoshito) | 元大分県立先哲史料館・元館長 | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

| | |
|--|--------------------|
| 国際研究集会 「日本近世文書のくずし字解読を学ぶ - バチカン図書館所蔵マレガ収集文書を通じて」 | 開催年 2017年～2017年 |
| 国際研究集会 日本バチカン外交関係樹立75周年記念「バチカン図書館所蔵マレガ収集切支丹文書群の伝来と構造」 | 開催年 2017年～2017年 |
| 国際研究集会 国際シンポジウム「マレガ収集日本資料の発見と豊後キリシタン研究の新成果」 | 開催年 2019年～2019年 |

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|